

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	下関市こども発達センター はたぶ園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 31名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月2日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の通園を通してより豊かな成長のために、個々の発達に応じた療育を各専門職を含めたチームアプローチで行っている。	年に数回、各専門職が集まり、ケース会議を開き情報交換や連携をとりながら本人や保護者の支援にあたっている。また併設されている発達診療所のDrにも助言をいただきながらチームで療育にあたっている。	職員一人一人が自己研鑽に励みながら、療育に関わる知識や技術の獲得に努め、お子様や保護者の方々に安心して通園していただけるよう取り組んでいきたい。
2	同事業所内に相談員も在中(通園しているほとんどのお子様に対応)しているので家庭とも連携をとりながら生活全般をトータル的に支援し、情報を共有できる。	事業所内で、支援者や相談員、専門職がともにサービス担当者会議やケース会議、面談等に参加し保護者の方々の思いやご意見を聞き、サービス等利用計画や個別支援計画に反映させることが出来る。	今後も他部門と連携を図りながら療育の充実を図っていききたい。
3	保育所等訪問支援事業や施設支援等で、地域の幼稚園、保育園、児童発達支援事業所と連携を取りながらともに支援の必要なお子様への理解や対応にあたっていきたい。研修会・勉強会などを積極的に実施し地域の職員のスキルアップも図っていききたい。	自立支援協議会、子ども部会、通所分科会などに参加・企画・運営し、地域の事業所の方々との関係づくり、また、研修会を企画し、発達支援に関するスキルアップに取り組んでいる。	センターの全職員が資質の向上に努め、地域の方々と共に学びながら、発達支援のバイザーとしても活動できるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	行事のあり方・保護者との連絡方法・記録のとり方・文書の作成等、見直しを図り、効率化に向けてICT化等の取り組み等が必要。	慣例に従い色々な業務を行っている。	業務の見直しや効率化に向け、法令や時代に即した見直しが必要だと思われる。
2	設立30年に近づき、施設の老朽化や汚れなど環境の劣化が目立つ。また、時代に即した設備などへの転換も図っていききたい。		日々の点検等をしっかり行い、気になる箇所は専門業者に修繕や清掃をお願いしていき、過ごしやすい環境の確保に努める。
3	日々の配置基準は工夫をしながら満たしているが、慢性的な人材不足や、職員の年齢層の偏りが見られる。正規職員の休みの保証が難しかったり、業務の負担が大きいが課題。	パート職員の休みの保証や処遇面での改善がみられるが、その分正規職員の負担が大きくなっている。	個々の資質向上に向けた取り組みや、また人材育成、キャリア形成のための雇用などに向けた取り組みを図っていききたい。